

ゴーストピルとは？

薬を服用した後、便中に錠剤の殻がみられることがあり、これを「ゴーストピル」または「ゴーストタブレット」と呼びます。

ゴーストピルは、「徐放性製剤(じょほうせいせいざい)」を服用した場合にみられることがあります。

「徐放性製剤」とは、有効成分が徐々に溶け出し、長時間効果を発揮するように工夫された製剤のことです。錠剤の形が保たれたまま有効成分が溶けていくため、錠剤の抜け殻や白い粒のようなものが溶け残り、そのまま便中へ排出されてしまうのです。

薬の形がそのまま便中に排出されてしまうため、「吸収されていないのではないかと不安になる方もいらっしゃるかもしれませんが、強い下痢をしていない限り、ゴーストピルの中には有効成分はほとんど残ってはおらず、薬の効果には問題ないと言われています。

【ゴーストピルが排出される可能性のある薬剤の一例】

ニフェジピンCR錠(高血圧治療薬)

デパケン®R錠(抗てんかん薬)

塩化カリウム徐放錠(カリウム製剤)

ディレグラ®配合錠(抗アレルギー薬)

メサラジン錠(潰瘍性大腸炎・クローン病治療薬) 先発:ペンタサ®錠

メサラジン腸溶錠(潰瘍性大腸炎・クローン病治療薬) 先発:アサコール®錠

～ 徐放性製剤の特徴 ～

徐放性製剤は、有効成分が徐々に溶け出すように作られた製剤で、服用回数を減らしたり、副作用を減らしたりする目的で使用されます。その種類は様々あり、その一部を紹介いたします。

レペタブ型

腸で溶けるようにコーティングした錠剤の外側を胃内で溶ける外層で覆った錠剤

スパンタブタイプ

速く溶ける部分とゆっくり溶ける部分を重ね合わせて2層にした錠剤

ロンタブタイプ

速く溶ける外層とゆっくり溶ける内層を2重あるいは3重にもつ錠剤

グラデュメット型

多孔性の不溶性プラスチック格子間隙に含まれた薬物が消化管液に拡散して放出される錠剤

ワックスマトリックス型

基材(脂肪やロウ)のマトリックスの中に薬物を分散させて、徐々に薬物が放出されるように調節した錠剤

徐放性製剤は、通常の製剤に比べて、1錠中の有効成分の量が多く、長時間に渡って吸収されます。

そのため、つぶしたり、かみ砕いたりして服用すると、多くの薬剤が急に吸収されるため、副作用発現してしまう危険があります。

徐放性製剤は、つぶしたり、かみ砕いたりしないようにしてください。